

オンライン授業開始

午前中2回、来月1日まで

中付属一館下

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて休業している県立下館一高付属中（筑西市下中山）は21日、1期生の1年生40人に対し、オンラインの学習支援を開始した。5月1日まで、午前中2回の授業をオンラインで実施する。

本年度開校の同校は4月7日に入学式を開いたが、新型コロナウイルス感染症の国内拡大を受けて臨時休校。13日に授業を再開したが、14日から再び休校が続いている。

21日は、午前8時30分に「朝の会」、1限目「英語」と2限目「国語」の授業を実施し、午後は自習。同4時に「帰りの会」を行い終了した。

オンラインの学習支援に

は、学校からICT教育を想定し各生徒に貸与されていたノートパソコンが活用された。ネット環境は各家庭が整備した。画面には教壇上の教員だけでなく、各生徒の顔も動画で映し出された。音声や文字だけでなく、「OJ」「×」「ヘルプ」などと描かれたパネル表示も交えて意思疎通した。

金子みすゞ（1903～

30年）作の詩を紹介し作品の特徴を発見させる授業を



県立下館一高付属中の1年生に対し開始されたオンラインの学習支援。教員はビデオカメラに向かい、目の前にいない生徒たちに話し掛ける。生徒のパソコン端末には授業の映像が映し出される＝筑西市下中山

行った、中原吉朋教諭(37)「国語」は「今の生徒は技術のみ込みが早い。こち

らの工夫次第で面白い展開ができる」と話した。傍らで配信される動画の状況や生徒の反応をチェックする支援を行った、担任の松下興大教諭(35)「理科」は「子どもたちとオンラインで関わることで、生活リズムを整えることができれば」と期待を込めた。

(富岡良一)